



尾形的

1都1道2府43県 ○ 一期一景

第十一章
凜

photo: Masashige Ogata, writing & layout: Misao Ogata



「色が違う」。沖縄の地に降り立った人ならきっとそう思うであろう。空や海の色や艶やかさが違う。染め織物の色遣い、咲き誇る花々の色、洗いたーンの陶器の色合い。夫は仕事で何度も沖縄を訪れているが、周りを取り囲む色の多さと芸術的なその調和にいつもヤラしてしまうようだ。

今回は、沖縄本島勝連町の浜比嘉島での仕事。勝連から伸びている海中道路を伊計島に向かって進むとある小さな島。手つかずの自然と、神秘的な雰囲気私たちが迎えてくれた。

穏やかに流れる時間が、仕事もスムーズに運んでくれる。「お疲れさまでした〜」。本日の仕事が終了し、スタッフが後片付けをしている中、夫はカメラを手に出勤態勢に入っていた。遠出をする時間はないので近くをフラついてみる。

青々と立ち並ぶ木々や、瓦屋根の家々。「神の住んだ島」…そう伝えられているこの島は、どこか懐かしいようなホッとさせる雰囲気包まれている。

「一体感」。島に入ってからずっと感じていたもの。余計なものにはここにはない。そ

れそれぞれに意味があり、それらが調和し一体となっている。耳を澄ませば、島がいろいろ語りかけてくる。それに静かに耳を傾けていた夫の足が急に止まった。門の傍らに鮮やかな花を咲かせているアラマンダに、思わず目を奪われた。しかし、錆びた門は地の色を剥き出しにし、庭の植木が伸び放題になっている。空き家のような。人の匂いも消え、母家は息を潜めている。

（この花は、ここに住んでいた家族を毎日見送り、そして出迎えていたのだろう。せつなく咲いてもな…）

そんなことを想像し、少し感傷的になってくる。だが、その勝手な感傷を吹き消すかのように、優しい風が吹いた。「意味はある」とでも言いたげに、アラマンダの花が大きな花弁を誇らしげに揺らす。その花は凜とした姿で、そこに咲いていた。

Profile

尾形正茂 株式会社シェルパの代表であり、カメラマンとして広告や雑誌の他、CDジャケットやグラフィックなどに携わり日々格闘中。

尾形 操 平成17年よりフリーとして独立。現在はMacによる広告などのレイアウト・デザインに携わり日々格闘中。

シェルパホームページ
▶ <http://www.sherpa-jp.com>